

# 豚コレラ発生 農場が経営再開

豊田

家畜伝染病「豚コレラ」の感染が見つかった豊田市の養豚農場の一つが18日、経営を再開した。2018年以降、岐阜県と愛知県で相次いでいる豚コレラの発生農場が経営を再開するのは、両県通じて初。

同農場では2月、飼育する豚に食欲不振などの症状が見つかり、愛知県で初めて豚コレラの感染が確認された。飼育していた豚6640頭を殺処分したほか、農場を90日間封鎖して、施設の洗浄や消毒をす

いた。県畜産課によると、これまで県内では13例の感染が確認されているが、経営を再開した農場は初めて。異常が見つからなければ、年末にも豚の出荷を再開する見込みだという。

## 「豚コレラ拡散 防止に力注ぐ」

富田・東海農政局長

愛知、岐阜、三重3県を管轄する東海農政局の富田育稔局長(58)が19日、名



富田育稔・東海農政局長

古屋市で就任会見をした。東海地方で発生が相次ぐ家畜伝染病「豚コレラ」対策を重点課題に挙げ、「野生イノシシへの対策など、豚コレラ拡散防止に特に力を入れたい」と話した。

富田氏は農林水産省の飼料課長、畜産部長などを経て、8日付で東海農政局長に着任した。牛海綿状脳症(BSE)や鳥インフルエンザの発生時に原因究明にあたったことがあり、「豚コレラ対策でも経験を生かしたい」と述べた。具体的には豚コレラ対策については「現地調査の支援や防疫資材の調達・保管などの裏方的な仕事が多くなる。すでに設置している対策本部を中心に、引き続きコミットしていく」と話した。